

ぐりふあん letter



下鴨幼稚園おひさまプロジェクト

おひさま発電所ができました！



吉祥院こども園 SUN*SUN SMILE プロジェクト



index

- ◆ おひさま発電所ができました！ 下鴨幼稚園おひさまプロジェクト . . . 2
吉祥院こども園SUN*SUN SMILEプロジェクト . . . 3
- ◆ <COP29参加報告>
課題が残った交渉結果、市民アクションとCOP30に希望を . . . 4
- ◆ 「太陽光発電設置適性診断」について
内窓断熱体験記 . . . 5
- ◆ 2024年度 環境学習 . . . 6
- ◆ 会員ページ
事務局から
編集後記 . . . 7

おひさま発電所が できました！！！！

下鴨幼稚園おひさま プロジェクト

2022年9月に申し込みをいただいた下鴨幼稚園のおひさまプロジェクトが完成しました。

初めて幼稚園をお訪ねし、おひさまプロジェクトのあらかたを説明したとき、すぐに申込書を書いてくださったことを、印象深く思い出しました。出口園長先生の「おひさま発電所をつくる。」というご意向が、はっきり伝わってきたことを覚えています。

実は、申し込みをいただいてから、プロジェクトがスタートするまでに、かなり時間がかかってしまいました。申し込みが9月ならば、次の年度5～6月頃の補助金申請を皮切りに、2024年の春には、プロジェクトが終わるとというのが通例です。ほぼ1年間余計に時間がかかったのは、2023年度の補助金枠が今までになく早くいっぱいになってしまい、補助金がもらえなかったことが原因です。私たちも初めての経験でしたので、「プロジェクトは諦めます」とならないかと心配したのですが、「また来年ということと・・・」と、「おひさま発電所をつくる」意志は変わりませんでした。有難かったですね。

そして、おひさま発電所が完成し、出口先生は書いてくださいました。

「皆さまのたくさんのお気持ちが集まり、このたび、下鴨幼稚園に「おひさま発電所」が完成しました。ご支援をいただき心より感謝申し上げます。（中略）

幼稚園で子どもたちと関わっていると、子どもたちの未来、次の世代について、私たち大人が本当に大きな責任を担っていることをひしひしと感じています。神様が私たち一人ひとりを大切にしてくださっているように、私たちも隣の人たち、身近な人たちから大切にできたら。それと同時に、神様が創られたこの自然、地球を大切にできたら。その思いがこの「おひさま発電所」となりました。

「おひさま発電所」が出来て以来、大きい子が小さい子に「おひさまの元気が幼稚園の電気」とパネルの説明を

している姿をたまに目にします。ほほえましく思うと同時に、「子どもたちの元気が私たちの元気」と心の中でつぶやきます。

子どもたちの元気のために、笑顔のために私たちが出来ることは何か。それは「たいせつにする」ということ、そしてその思いを伝えていくことだと思います。神様の「たいせつな存在」である私たち一人ひとりが、隣にいる人を、この環境、地球を「たいせつにする」その思いを、この「おひさま発電所」を通して子どもたちに伝え、共に考えていきたいと思っています。

下鴨幼稚園におひさま発電所が完成した今、私たちも同じ気持ちでおひさま発電所をもっと広げていきたいと思っています。

※下鴨幼稚園は、キリスト教（日本聖公会）に基づき保育を行っています。日本聖公会は、2019年に『原発のない世界を求める国際協議会』声明を採択しています。



（きょうとグリーンファンド 大西 啓子）

下鴨幼稚園おひさまプロジェクト 収支報告		2025/3	
収入の部		支出の部	
プロジェクト寄付金 ゆうちょ払込 85件 640,000円 コングラントクラウドファンディング 6件 62,000円	732,000	設備設置費 ・太陽光発電(12.04kW) ・蓄電システム(7.04kWh)	3,980,000
プロジェクト基金助成	500,000	印刷製本費	200,000
民間助成金(パブリックリソース財団)	43,000	諸謝金	20,000
設置施設資金 (京都府自立的地域活用型再生可能エネルギー設備等導入補助事業補助金約180万円を含む)	3,870,000	記録費	55,000
		通信運搬費	142,000
		旅費交通費	12,000
		事務局経費	720,000
		雑費	16,000
合計	5,145,000	合計	5,145,000

(単位:円、千円以下原則四捨五入)

おひさま発電所が できました！！！！

吉祥院こども園 SUN☆SUN SMILE プロジェクト

社会福祉法人のなのはな会吉祥院こども園の園長（現在理事長）井上先生からご連絡をいただき、おひさまプロジェクトの説明に伺ったのは2022年12月、いろいろのやり取りの後、申し込みをいただいたのは2023年3月でした。2019年1月におひさま発電所を設置された山科区の安朱保育園の取り組みに関心を持ち、タイミングを見て応募されたということでした。きょうとグリーンファンドのホームページを隅から隅までご覧になっていた、そんな様子がかがわれ、うれしかったですね。

誌上インタビューをしました。

◆なぜ、おひさま発電所を設置しようと思われたのですか？

令和7年に開設90周年を迎える吉祥院こども園。こどもたちの未来のために温暖化の原因である二酸化炭素排出抑制の取組として地球にやさしい太陽光発電の設置を考えました。また、夜間や災害時の電源としての蓄電池を設置することで地域貢献にもなると思い考えました。

◆実際にプロジェクトを進めてみてどうだったのですか？

最初は、園の屋根の上に太陽光パネルを乗せるだけと考えていましたが、「NPO法人きょうとグリーンファンド」さんによる太陽光再生可能エネルギーのお話を聞き、脱二酸化炭素・温暖化防止・省エネ・節電分を寄付することにより、持続可能な自然エネルギーの普及に貢献できるということから、このプロジェクトに参加することになりました。

◆太陽光発電を設置して今後、どう生かしていきたいですか？

園に太陽光パネルを乗せたことについて、地域の市民新聞に掲載し、啓蒙活動をしていきたい。

◆子どもたち、職員の方々の反応はいかがですか？

玄関の棚の上に設置した、太陽光パネルの発電量がわかる表示モニターを子ども達も職員も毎日楽しみに見えています。表示モニターはこどもたちにもわかりやすいように、可愛いペンギンが表示され、画面が暗くなっている時は「ペンぎんさん、いないね～」と職員や保護者と子ども達の可愛い会話も聞こえてきます。

◆市民再エネプロジェクト in 京都に望むことは？

これからも、積極的に啓蒙活動をして頂き、「おひさま発電所」をもっと増やして欲しいです。当園も微力ながらお手伝いが出ればと思います。

井上先生の思いは、おひさまプロジェクトの思いそのものです。めざすものが確実に広がっていることが、私たちの何よりの喜びです。

（きょうとグリーンファンド 大西 啓子）



吉祥院こども園SUN☆SUN SMILEプロジェクト 収支報告			2025/3
収入の部		支出の部	
プロジェクト寄付金 ゆうちょ払込 113件 889,000円	889,000	設備設置費 ・太陽光発電(15.48kW) ・蓄電システム(9.80kWh)	4,661,000
		印刷製本費	192,000
プロジェクト基金助成	500,000	諸謝金	20,000
民間助成金(パブリックリソース財団)	142,000	記録費	55,000
設置施設資金 (京都府自立的地域活用型再生可能エネルギー設備等導入補助事業補助金約220万円を含む)	4,171,000	通信運搬費	39,000
		旅費交通費	10,000
		事務局経費	720,000
		雑費	5,000
合計	5,702,000	合計	5,702,000

(単位: 円、千円以下原則四捨五入)

国連気候変動枠組条約第 29 回締約国会議 (COP29) は 2024 年 11 月 11 日から 11 月 24 日までアゼルバイジャン共和国の首都バクーで開催された。COP29 は「資金 COP」とも言われ、先進国から途上国に対する気候資金の増強に注目が集まった。

●2025 年以降の気候資金目標に合意

気候資金に関する新規合同数値目標 (NCQG) の議論は難航するも合意に至った。これは気候変動対策のために、先進国から途上国へ提供される資金の 2025 年以降の目標を定めるもので、COP29 での最大の焦点となった。気候変動の原因となる温室効果ガスを多く排出してきたのは先進国であるにも関わらず、気候変動による被害を受けやすく、対策のコストが膨らむ途上国からは、先進国からの公的資金を中心に年間 1 兆ドル以上の目標に合意することが一貫して求められていた。しかし、結果として 2035 年までに先進国が途上国に対して少なくとも年間 3,000 億ドルの資金援助を行うことで合意し、途上国が大きく譲歩した形となった。交渉が非常に難航し、交渉の終盤には島嶼国連合をはじめとした途上国の代表団が抗議のため退席する場面も見られた。可決後もインドやナイジェリアなどの途上国の代表は語気を強めて反発した。インドはこの合意を「錯覚を招くものに他ならない」と表現し会場からはその力強いスピーチに拍手が起こった。

●市民社会・企業・自治体の動き

NCQG をはじめとした交渉は大きな進展がみられなかったが、交渉外では積極的な動きがみられた。気候変動対策に後ろ向きなアメリカのトランプ再選による懸念が広がる中、アメリカの企業や自治体のネットワークである「America Is All In」は、政権に揺さぶられることなく対策を進めていくことを宣言し、その姿に注目が集まった。

また、市民社会も前向きな姿勢を貫いた。会期中は数多くのアクションが行われ、会場を行きかう人々の目に留まった。本会議場前でもパフォーマンスが行われ、一貫して先進国の資金コミットに焦点を当てつつ、化石燃料の段階的廃止や先住民の権利擁護などを訴える団体もあり、多様なメッセージが示された。会期後半には NCQG の目標が不十分であるとして粘り強く

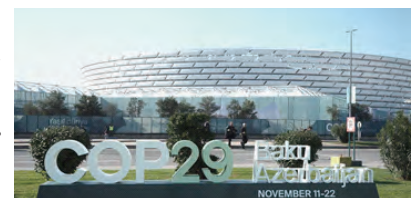
メッセージを伝え続け、会議場の交渉官たちに声を届けた。満足のいかない交渉結果に失望感を示しつつも前向きに活動した市民社会の姿勢は、人々に強い印象を焼きつけたのではないだろうか。

市民社会のアクションに対する措置が今回もあった。過去の COP を振り返ると、地域住民も巻き込んだ大規模なマーチが行われていたが、ここ 3 回の COP では関係者のみの会場内でのアクションしか許可されなかった。いずれも COP 開催に際して市民活動の制限に懸念が示されてきた国々での出来事である。

●今後の展望

COP29 開催国のアゼルバイジャンは世界有数の産油国であり、アリエフ大統領は石油やガスを「神の恵み」と表現し物議を醸した。環境政策に遅れを見せているアゼルバイジャンではあるが、今回の COP を支えた若いボランティアたちが何を感じ取ったのかは面白い着眼点ではないだろうか。約 3000 人いたとされる主に学生のボランティアたちは、普段目にする事のない市民社会の活動や気候変動に関する激しい交渉の様子を見ていた。アゼルバイジャンで過ごしていると気づくことがなかった彼ら自身の国の政治について疑問を持つきっかけとなり、国を変える人材が生まれることを期待できるかもしれない。

COP30 は 2025 年 11 月にブラジルのベレンで開催され、生物多様性や森林保護などが焦点となると予想される。また、気候資金拡大の議論が期待されるほか、COP29 で合意に至らなかった公正な移行や損失と損害、緩和などについても引き続き議論が進められる。現在のブラジル政権は気候政策に積極的な姿勢を見せており、リーダーシップを発揮することが期待される。



市民社会によるアクション

「太陽光発電設置適性診断」について

きょうとグリーンファンド 大西 啓子

このほど「太陽光発電設置適性診断報告書」がまとまりました。文字通り、太陽光発電を設置する場所が適切か、平たく言えば、「太陽光発電をつけられるのか」を診断し、まとめたものです。考えてみれば、おひさまプロジェクトがスタートする前の、一番肝心のポイントなのですが、今まではその結果を「まとめる」ということをしてきませんでした。

太陽光発電設備を設置するには、言うまでもなく、太陽がよく当たる設置面があることが必要です。建物の構造や形状、日影となるものの有無、建物の建築図面や、電気の契約種類や使用電力量のほか、蓄電池を設置するかどうかも確認したうえで、設備の規模を決めて、設置施設に提案としてまとめます。また、この規模のシステムであれば、設置費用はどのくらいか、年間発電量や削減できる使用電力量、CO2削減量なども検討して、設置施設には伝えてきました。でも、いわゆる「調査結果」としてまとめてはいなかったのです。

今回「太陽光発電設置適性診断調査」として形を整えてまとめ、その費用についてもみていただいたのは、京都地球温暖化防止府民会議でした。今回対象となったのは、京都市内の中・高一貫校と宇治市内の保育園の2ヵ所です。今のところ、おひさまプロジェクトとして取り組めるかはわかりませんが、設置に際して検討するべき事柄をまとめたことは、設置に向けての提案内容としても適切なものと思っています。過去にこのようにまとめた内容で、設置を考えておられる施設に提案出来ていたら、もっと多くの施設に設置が進んだのではないかと、などと思っています。

これからは、設置を考えておられる施設には今回のような内容の適性診断報告をまとめて提案し、設置プロジェクトへと進めていただければと考えています。

内窓断熱体験記

きょうとグリーンファンド 林 敏秋

前号の「断熱が地球を救う」という文書の中で、自宅に内窓を設置したことを報告しました。あれから半年。一冬越して実際どうだったのか報告しておきたいと思います。

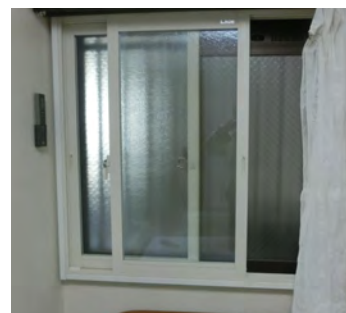
その前に簡単に内窓設置の状況を振り返っておきます。昨年6月、国の「先進的窓リノベ2024事業」補助金を使って、既築マンションの引き戸サッシ2カ所、窓2カ所に樹脂サッシの真空ペアガラスの内窓を取付けました。

昨年夏の電気代を比較すると23年8月271kWh⇒24年259kWh、9月288kWh⇒280kWhと僅かながら減少していました。23年と24年の京都の各月の平均気温を比較すると8月はあまり変わりなく、24年9月は約1℃ぐらい高くなっていました。23年よりも24年はほぼ毎日エアコンを使っていました。その割には電気代があまり上がらなかったという感覚です。

冬場はサッシを閉め切り、温度計をみていましたが、20℃を下回ることは一度もありませんでした。エアコンは一度も使わず、たまにホームこたつを使用した程度でした。10℃以下の寒い日など外から帰ってくると家の中が暖かいのが解りました。内窓導入前もマンションのためか冬場はほぼ18℃前後でしたので、おおよそ2℃程度は部屋の温度が上がったこととなります。

夏場は猛暑日が連続するなどエアコンを使うことが多くなり、電気代でしか比較することができません。冬場はエアコンは使うことがないので温度計を毎朝みて比較しています。過去に冬場は14℃まで下がったこともあります。今年は20℃を下回ることはありませんでした。内窓導入の効果を感じることができました。

地球沸騰化をひしひしと感じますが、脱炭素化には再エネの導入とエネルギーの効率化＝省エネが必須です。内窓は補助金もあり、比較的導入しやすいアイテムです。まだ導入していない方には是非ともお勧めします。





2024年度 環境学習



2024年度の環境学習は、前半は環境腹話術、後半は自然観察会が多かったです。

京都御苑での、親子50人程の自然観察会の時、みなさんお家からペットボトルに少しの水を入れて持って来られていました。前もって、園からのアドバイスがあったようです。

北側から入ってすぐの所にある「クロモジ」の木の実を拾って、ペットボトルの容器に入れて振ると、みるみるうちに泡立ってきます。「面白い！」泡立つのは「サポニン」という泡立つ成分が入っていて、昔は洗剤として使われていたらしい。



さらにその黒い実は、硬くて羽子板の羽の玉になるのです！ドングリがたくさん木になっていましたが、あまり落ちていませんでした。気候のせいか、落ちるのが遅かったようです。でも珍しい「トチ」の実を発見しました。クリのようですが、殻にイガはありません。広い京都御苑の中、親子で色々発見したり楽しそうでした。



一方、年長さん7人だけの自然観察会もありました。緑多い園庭で、耳を澄ませ

周りの音を聞いたり、聴診器を木にあててどんな音がするか…？

次に自分が好きな葉っぱを拾って、お部屋でその上に白い紙をのせ、鉛筆で擦ります。みるみるうちに葉っぱの葉脈が浮き出てきます。始め、



恐るおそる鉛筆で擦っていたのが、だんだん面白くなったのか、もっともっと～と紙のおかわりをするほどに。それも終わりになり、葉っぱをくず箱へ。でも「葉っぱを捨ててしまうのは、かわいそう」という女の



子が。「どうするの？」と聞くと、園庭に出て落ち葉が集まっているところに、そっと置きました。葉っぱの仲間がいるところに返してあげたんだね。やさしい～！

自然観察会といっても、親子大勢であったり、少人数の子どもだけであったりと、いろいろなかたちがありますが、それぞれにいいところがあるように思います。今後も園のご希望により、自然観察会をやっていきます。



それから今年、職員研修として「エコすごろく」のワークショップをしてくださる園がありました。この園は、エコすごろくを熱心に使ってください、「また違うすごろくを貸してください！」と。そこで、「園オリジナルのすごろくを作ってみませんか？」と言っ

たところお受けくださる事に。地球温暖化の最新のお話を最初に聞いてもらい、その対策として子どもたちにどう伝えようとすごろくの内容を考えてもらいました。遊びながら環境にいい事をすれば、コマが進んだり、悪いことをしたら、戻ったり、1回休みになったり…、先生方は、ああ～だこうだと言いながら、3グループ、それぞれに趣向をこらしたすごろくができました。



今回の研修で、自分のことを振り返りながら、子どもたちに伝えていく大切さを再認識して下さったようです。オリジナルのすごろくが出来たら、きっと先生方も今以上に気合いの入ったエコ活動になることでしょうね。

(きょうとグリーンファンド 深川佳子・山本照美)

自宅の生ごみは分別して 100%堆肥にするエコ生活をはじめて7年になる。ちょうど定年退職をして時間に余裕が出てきてからだ。生ごみは殆どが水分で成り立っているため、おかげでゴミ袋も指一本で持てるくらい軽量となった。家庭ごみの排出も週1回程度となり、20ℓ袋半分程の減量となって、爽快な気分で朝のゴミ出し日を待っている。

利用しているコンポスト容器は、自治体の助成金で購入した160リットルの最大のものである。小さな庭があるので条件は良いが、調べるとマンション等では段ボール箱や布袋の利用もあるようだ。

実は、生ごみの堆肥作業は何度も失敗を繰り返し挫折してきた。電動生ごみ器は、三台は潰している。原因は、夏場の水分量の多くなる時期に、発酵ではなく腐敗が原因でウジやハエ等の発生と悪臭に困って断念したからだ。

この経験があるので、コイン精米所から無料でヌカを、学校や公園から落ち葉を入手し腐葉土も購入して、水分調整で発酵を促進させている。常に刈込バサミで材料を細かくし、容器の中に温度計を入れては観察。白カビの状態や匂い等で発酵具合を測っている。温度が下がれば発酵促進材を入れるが、真冬にコンポスト容器で発酵がすすみ、蓋を開けると白煙があがる光景は感動ともなった。

円安や政情不安で輸入肥料が高騰し農業に打撃を与えている。生ごみやし尿下水を産業廃棄物として処理せずに、堆肥として再利用できれば肥料の自給に少しでも役立つはずだ。大正時代まで、各家庭でのし尿は農家に売却していた時代もあったのだから。

事務局から クラウドファンディングに挑戦！

コングラント株式会社の「SDGs に貢献する寄付型クラウドファンディング GIVING for SDGs」でクラウドファンディングに初挑戦しました。

「来年の夏はもっと暑い…かも知れません。未来は子どもたちのもの。みんなでつくりましょう、子どもたちの幼稚園に「太陽光発電を！」～下鴨幼稚園におひさま発電所をつくろう！～というプロジェクトを立ち上げ、寄付を募りました。

[<https://congrant.com/project/kgf/13966>]

ソニー銀行の支援によりプロジェクトへの寄付が 100%支援した団体に届くこと、また、All in 方式のため、目標金額を達成できなかった場合も寄付金は団体に入金されるということで、新しい試みとして取り組むことにしました。残念ながら、目標額には届きませんでした。62,000 円 (6 件) の寄付がありました。

他にも、今年度から OSUSO(日本の思いやり文化「おすそわけ」で世界を良くするサービス <https://www.osuso.me/>) にも登録、企業や個人の方からの寄付を「おすそわけ」していただいています。単に寄付を集めるだけでなく、きょうとグリーンファンドの活動を広報するよい機会として、いろいろな媒体で寄付のお願いを進めていきます。



編集後記

- ・世界中かき回している人がいます。気候変動については、彼の頭の中にかけるもないみたいですね。でも、温暖化は進み、気候災害は容赦なく世界中を襲うでしょう。しっかりしなくては…。(K.O)
- ・去年の今頃は、河津桜がきれいに咲いていたのに、今年は、ようやく咲き始めました…といった感じ。水仙の花も咲くのが遅かったし花も木も、年ごとに変わる気候に戸惑っているようです。(Y.F)
- ・今年度、若い方が町内会の会長を務めてくださいました。役員連絡は全てスマホ、京都市からのお知らせもLINEで受取。今時です(T.Y)
- ・家電をリサイクルしている工場の見学に行ってきました。洗濯機を解体すると、殆どのパーツはリサイクルされて、製品として生まれ変わります。残りはパッキン部分ですが、こちらは燃料として使用されます。「家電リサイクル券」を使用して適正な処理を守りたいですね。(Y.M)
- ・北陸新幹線延伸問題が揺れている。地下水で成り立っている京都の文化や産業に悪影響をもたらすのは明らかだ。原発もそうだが、結果は明らかなのに何故か押し進めようとする。まるで何かに取付かれているようだ。(T.H)
- ・ロサンゼルスの大火で知人宅が全焼、日本でも大船渡の山火事と気候災害が身近に迫っています。もはや地球温暖化は手の施しようがないところまで来ているのかとネガティブに…。でも、気持ちを切り替えて、出来ることだけでも…(SK)

ぐりふあん日誌

<2024年>

- 7/24 役員変更届提出/法務局
- 7/27 上鳥羽自治連合会 夏の夜市参加/村山公園
- 8/1 下鴨幼稚園おひさまプロジェクト寄付募集開始(~1/30)
- 8/21 ヒアリング(滋賀県立大学生)
- 8/24 吉祥院こども園SUN×SUN SMILEプロジェクト「おひさま学習会」/吉祥院こども園
- 8/24 上鳥羽北部 いきセン・エコまちくらぶ「エコ体験イベント」参加/上鳥羽北部 いきセン
- 8/27 市民再エネプロジェクトホームページ開設
- 9/1 吉祥院こども園SUN×SUN SMILEプロジェクト寄付募集開始(~12/31)
- 9/3 自然エネルギー学校・京都2024検討会議/オンライン
- 9/4 京都府「エコ京都21」登録更新
- 9/14 第4回自然エネルギー学校・京都2024 /京エコーセンター
- 9/27 市民再エネプロジェクト「太陽光設備等立会検査」/吉祥院こども園
- 9/27 洛星中学・高等学校訪問
- 9/28 第3回自然エネルギー学校・京都2024 /京エコーセンター
- 9/28 自然観察会(陵ヶ岡こども園)/京都御苑
- 10/9 槇島ひらぎこども園訪問
- 10/10 第3回下京区はぐくみネットワーク実行委員会出席 /下京青少年活動センター
- 10/11 市民再エネプロジェクト「太陽光発電設備等立会検査」/下鴨幼稚園
- 10/19 第5回自然エネルギー学校・京都2024/壬生寺
- 10/25 自然観察会(大宮保育園)/府立植物園
- 10/26 職員研修「すごろくWS」/かすかのえんこども園
- 11/1 京都府再エネ導入等支援団体登録更新
- 11/8 吉祥院こども園SUN×SUN SMILEプロジェクト「点灯式」/吉祥院こども園

- 11/9 自然観察会(認定こども園みょうりんえん)/京都御苑
- 11/15 自然観察会(つくし保育園)/つくし保育園
- 11/19 下鴨幼稚園おひさまプロジェクト「点灯式」/下鴨幼稚園
- 12/1 中唐戸児童館こどもまつり参加/中唐戸児童館
- 下鴨幼稚園おひさまプロジェクト クラウドファンディング (GIVING for SDGs) 開始(~1/31)
- 12/5 太陽光発電設置適性診断現地調査 /槇島ひらぎこども園
- 12/6 ヒアリング(平野さん(松戸市))
- 12/15 JICA草の根プロジェクト-最終成果報告会参加 /キャンパスプラザ
- 12/18 第150回理事会
- 12/20 ヒアリング(自然エネルギー市民の会)/オンライン

<2025年>

- 1/17 京都市認定NPO法人認定申請現地調査
- 1/27 上鳥羽北部 いきセン・エコまちくらぶミーティング /上鳥羽北部 いきセン
- 1/31 環境学習振り返りミーティング(腹話術)
- 2/7 環境学習振り返りミーティング(自然観察会)
- 2/12 上鳥羽北部 いきセン・エコまちくらぶ「児童館 エコアクション」参加/中唐戸児童館
- 2/21 第151回理事会
- 3/11 自然エネルギー学校・京都2025検討会議/オンライン
- 3/12 ヒアリング(おかやまエネルギーの未来を考える会)
- 3/14 上鳥羽北部 いきセンエコ活動についてミーティング /上鳥羽北部 いきセン
- 3/17 上鳥羽北部 いきセン・エコまちくらぶミーティング /上鳥羽北部 いきセン
- 3/26 第152回理事会

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によってささえられています。おひさま基金へのご支援をお願いします。

◆ ゆうちよ銀行

ゆうちよ銀行振替口座番号：00930-6-157817 加入者名：きょうとグリーンファンド

◆ オンライン寄付サイト Give One

クレジットカードによる寄付ができます。
「わたしのまちに太陽光発電～寄付で自然エネルギー」



◆ ソフトバンクつながる募金



携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができるだけでなく、ソフトバンクユーザー以外の方でもクレジットカードによる寄付ができます。



★詳細はきょうとグリーンファンド HP 「入会・寄付のご案内」をご覧ください。 <http://www.kyoto-gf.org/donate/donate.html>

★2020年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数

正会員 36 賛助会員 30
法人会員 6 2025/3 現在

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町21 事務機のウエダビル206

TEL/FAX ; 075-352-9150

E-mail ; info@kyoto-gf.org

URL ; <http://www.kyoto-gf.org>

(火～金 13:00～16:00)

